



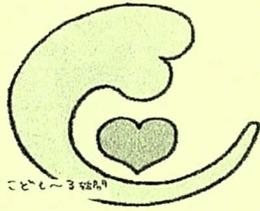
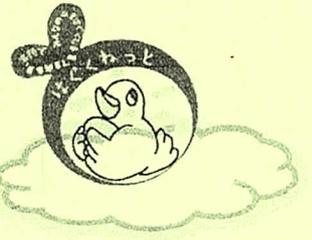
Insta



Mail



URL



《運営》
認定NPO法人
地域家族しんちゃんハウス

- ☆子育て親子の交流つどいの広場の提供
- ☆子育てに関する相談・援助
- ☆地域の子育て関連情報の提供
- ☆講習会

利用対象者

- ★乳幼児（0～3歳未満）と親（保護者）
- ★妊婦さん



《お問い合わせ》
電話：090-3685-2288(こども〜るフォン)
場所：イオンモール大和4F（ライトコート側）

1月の予定

日		月		火		水		木		金		土	
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
1 お休み		2 お休み		3 お休み		4		5		6 育		7	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
8		9 育		10		11		12		13		14	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
15		16 育		17		18		19		20		21	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
22		23 育		24		25		26		27		28	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
29		30		31		☆こども〜る鶴間のライトはなぜ暗くしてあるか ご存じですか？ 赤ちゃんの脳活動に最適にして あるからです。大人は明るいのが良いかもしれませんが、 赤ちゃんは違います。光の刺激が強かったり多 かったりすると興奮してしまうのです		栄：栄養士 看：看護師 保：保育士 子：子育てアドバイザー 経：子育て経験者 助：助産師					
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	
保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保		保・保	

☆子育てアドバイザーの交代は14時です

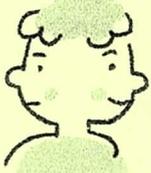
管理栄養士による 栄養相談 (14:05～17:35)	保健師による育児相談 A(13:30～16:30) B(14:05～16:05)	保育士による 育児相談 (13:30～16:20)	発育相談 (14:05～17:35)
保育士/ボランティア による手遊び (10:30～11:00)	絵本読み聞かせ (10:30～11:00)		

お知らせ

11月から利用時間区分が変更になります
各時間8人・入替制（各時間毎に清掃を行います）

- ①10:20～11:20
- ②11:35～12:35
- ③12:50～13:50
- ④14:05～15:05
- ⑤15:20～16:20
- ⑥16:35～17:35

より多くの方にご利用していただける様になりました
皆様のお越しをお待ちしております



～笑顔ではぐくねっと～スキルアップ講座より

「ゆるす」の周辺

毎年このスキルアップ講座で講演いただいている若林先生の「ゆるす」という主題。毎年テーマは同じですが、一度として同じお話はなく、「ゆるす」というテーマの奥深さが伺えます。「ゆるす」という心情は日々の私たちの暮らしの中で、とても密接にととても関わり深く存在しているからこそ、若林先生の「ゆるす」についての考察や研究が心に響きます。

●「ゆるす」に対しての解釈の違いを改めて考える

「ゆるす立場」と「ゆるされる立場」で解釈が変わるのは当たり前だが、この二つの立場の中で同じ立場であっても、同じ心情とは限らない。同じ被害を受けても家庭の事情や人間関係、生活環境の違いなどで、捉え方や取り組み方が変わってくる。世の中に色々な家庭があるように、心情も各々異なってくる。また、歳や年月を重ねることで心情に変化が出てきたり、まだ「ゆるす」ということばさえ心に辛く響くということもある。「ゆるす」とは、心と体の中で、色々に変化する生き物のような存在。「ゆるす」というと一律に考えられがちだが、「ゆるす」にこそ個別の配慮が求められるべき。「絶対にゆるせない」「ゆるしたいのにゆるしにくい」など「ゆるせない」という気持ちを取り上げても、色々な細かな心情が存在する。



性問題は言い出しづらくそれ故、加害者の謝罪を受ける機会も残念ながら少ない。被害にあった側の「加害者の顔も見たくない」「その光景を思い出したくない」など面会やその時の話を拒否したいのが心情だからだ。そうした中でも性問題者支援取り組みに声を上げる方の多くは、自ら専門家（カウンセリング・警察など）と相談して、自信を癒し回復の兆候を確認する「ゆるむ」作業を行なっている。「ゆるす」という行為は単純なものではなく、色々な要素が絡み合っている為、

誰かと信頼関係が築けると、それがきっかけで体と心が「ゆるむ」状態になり、それが「ゆるす」へとつながるきっかけになることも。性被害には幼児も多く、その場合自分がされていることの被害の自覚もなかったり、親に言わないよう脅されていたり、恥ずかしさや後ろめたさで伝えなかったりする場合もある。日々の子供の様子を観察し、子供の様子の変化に親が気付けるかどうか、被害を防ぐ大切な鍵を握っている。被害を受けた後の、声にできない叫びを大人がキャッチできるかも、傷の癒され方に違いをうむ。

●「寄る辺なき個人」をいかに社会が包み込めるか

「寄る辺なき」とは、身を寄せるあてがない、頼りにできる類縁のものがいないという意味であり、孤独や不安を意味する。2022年7月に起きた襲撃事件において、容疑者の目的は政治的主張にもとづくテロなどではなく、「個人的な恨み」との見解が強い。容疑者の母が破産した2002年から凶行に至るまでの20年間、多くの若者が就職氷河期、非正規雇用の拡大時期で、容疑者は資格取得に努めながらも職を転々とし40代を迎えた。大正・昭和初期の日本で続発した政治からの要人暗殺も、不遇感を抱いた個人が引き起こした事件が少なくないという。

核家族で生活する世帯の増加により、地域で関わりあい互いに声を掛け合う人間関係を身の回りで築きにくい現状の日本社会。皆がそれを自覚し自分の周りで生活する人々を気遣うことが、寄る辺なき個人を減らしていく活動への第一歩につながる。世間では色々な自由が叫ばれるが、自由の裏には孤立が隠れている。孤独はある程度必要だが、孤立はそれとは違う。孤立なのか孤独なのか、見極めれる目を皆が養っていききたい。

襲撃した大罪を追求する思いと並行して、追求すべきは犯人ではなくそこまでに追い込んだ社会や生活環境なのではないかという声も。それは容疑者の生い立ちや団体との活動の関わりが明らかになるにつれて、容疑者も被害者ではないかという声が上がっているからだ。容疑者の行なった行為を「ゆるす」ことに繋げる動きと、狙撃した犯人また人の命を奪った者として「ゆるす」わけにはいかないという真逆の動き、これは改めて「ゆるす」を考える機会となった。

講師
若林 心みずきさん



生活臨床心理カウンセリングセンター代表。
仙崎武文教大学名誉教授のもとでカウンセリングを学び、欧米の研修に参加。塾主宰、神奈川県福祉推進員、文教大学学生相談室カウンセラーを経て、現在もセミナー講師、カウンセラー、文筆家として活躍。

